

工事書類簡素化更に推進

大分県と建協がWG開催



技術管理室工事技術管理班の波多野勝幸主幹（総括）らが出席した。

冒頭、大庭委員長は「工事書類簡素化は、平成30年度に協会と県がWGを立ち上げて検討が始まっており、これまでに大分県独自で多くの簡素化に取り組んでいることに感謝している。毎年発生する自然災害の復旧工事や国土強靱化の加速化

共に後継者不足が大きな課題。残業時間の上限規制や週休2日などこれまでの働き方を大きく変える必要があると認識している。県としても工事書類の簡素化を推進していきたい。アンケート調査を基に、今年度の簡素化のたたき台の作成について、忌憚のない意見をお願いする」と述べた。

【大分】大分県と（一社）大分県建設業協会は22日、工事書類の簡素化に向けた検討会の令和3年度第1回ワーキンググループ（以下WG）を大分市のアートホテルで開催し写真した。現場のさらなる負担軽減に向けて、現場技術者の意見を踏まえながら工事書類の簡素化について活発な意見を交わした。

WGには、大分県建設業協会の大庭浩司土木委員長や佐藤圭介副委員長、野中昭良副委員長のほか、委員や技術者らが参加。大分県からは建設政策課技術・情報システム班の楠野貴大主幹（総括）や工事検査室工事検査第2班の坂元大輔参事（総括）、工事検査第1班の吉松亮室長補佐（総括）、農林水産部の工事

しているが、合わせて不調な落も発生している。円滑な工事の受注を行うためには、技術者を含めた人材確保が必要不可欠。その一つの手段として現場負担の軽減につながる書類の簡素化はとても重要な取り組みだ。建設工事

WGでは、今年8月に実施した受注者（302社）と発注者（302人）へのアンケート調査を踏まえて、WGに参加した現場技術者から、今年度の簡素化の取り組み方針や内容について具体的な意見を交わした。県は、WGの意見を踏まえ、今後、工事書類簡素化の手引き（改訂版）の素案を作成し、引き続き協会と協議する方針だ。